

特別セッション 学生のための「技術士を目指そう」説明会

Report of the special session of Annual Autumn Meeting in 2018  
“Be a professional engineer” for university students

第 34 期 人材育成委員会

1. はじめに

2018 年秋季大会において、(公社)日本技術士会 経営工学部会の協力のもと、特別セッションを開催したので報告をする。

本特別セッションは大会の1プログラムとして次のような特徴をもった説明会となった。

- ①事前参加申し込み制をとったこと
- ②参加形態を会場とネットの 2 通りとしたこと
- ③会場参加者は他のプログラムも無料聴講可としたこと(2018 年 10 月 27 日(土)のみ)

説明会は、10 時 30 分から 12 時の 90 分枠をいただき、JIMA の紹介に続き、技術士会から派遣していただいた講師 4 人の説明、それに続く質疑応答で締めくくった。尚、参加者には所定のアンケートにご協力をいただいた。

2. 特別セッションの内容

2.1 趣旨、目的

3 団体連携事業のひとつとして人材育成委員会では過去 9 年間、産業界の人々を中心に技術士制度の説明会を行い制度への理解を深めてきた。

今回は、初めてのケースとして対象を学生・教職員にした説明会を開催し、学界の人々への認知度を高めようと考えた。

2.2 開催迄の準備

第 5 回理事会において構想を提案し、第 7 回理事会で基本承認をいただき併行して技術士会と事前調整・打合せを行うことで詳細事項を詰めていった。

ここでは「学生・教職員を対象」とした場合、どのような講師が良いか、どのような説明をしたら良いか等について議論を重ね説明員に出来るだけ若手を起用することで学生から見て将来がイメージしやすいように配慮した。

本プログラムの特徴①にある事前参加については、JIMA や技術士会のウェブサイトで案内をすると共に諸大学の先生方にも多大なご協力をいただいた。

また特徴②は、会場に Web 配信設備を導入するこ

とでネット参加者への対応を可能とした。

2.3 当日のプログラムと参加者

これらの準備を踏まえて、当日のプログラムは下記のように設定された。

- ・日本経営工学会の活動紹介
- ・技術士制度について
- ・(若手)修習技術者からの説明
- ・(ミドル)企業内技術士からの説明
- ・(シニア)企業内技術士からの説明
- ・質疑応答、意見交換他



図1 人材育成委員会 委員長による JIMA 説明



図 2 (若手)修習技術者からの説明

当日の参加者は 48 名となった, このうち事前申し込み者 25 名(会場 12 名, ネット 13 名)で当日参加された方が 18 名, 当日参加者が 20 名, そして関係者が 10 名の内訳だった.



図 3 質疑応答・意見交換の様子

### 3. アンケート結果の集計

参加者に対して, 下記の内容をアンケートした。

- Q1: 今回の案内を知った経緯は?
- Q2: JIMA の認知度は?
- Q3: 興味を持った JIMA の活動は? (複数回答)
- Q4: 今回の説明会は役にたったか?
- Q5: JIMA に入会しますか?

これに対する有効回答数は 19 だったが, それを集約すると図 4~図 8 のようになった。

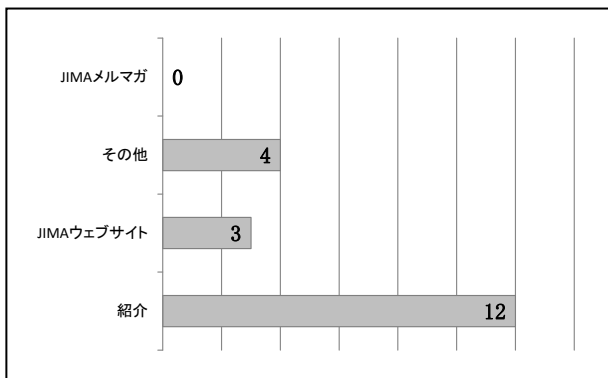


図 4: Q1: 今回の案内を知った経緯は?

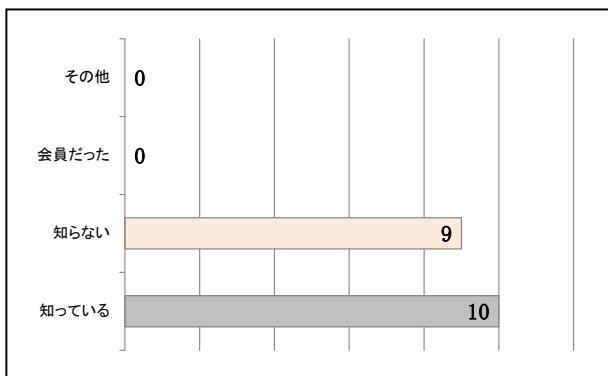


図 5: Q2: JIMA の認知度は?

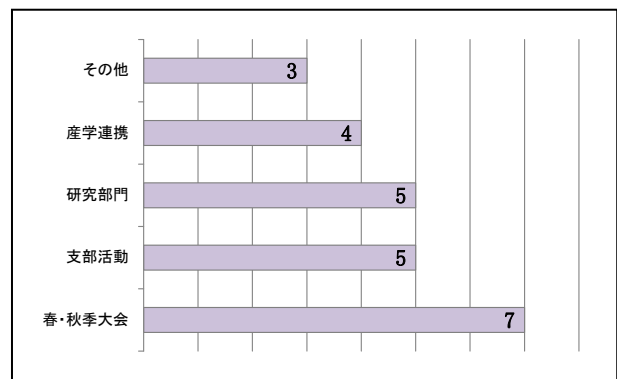


図 6: Q3: 興味を持った JIMA の活動は?

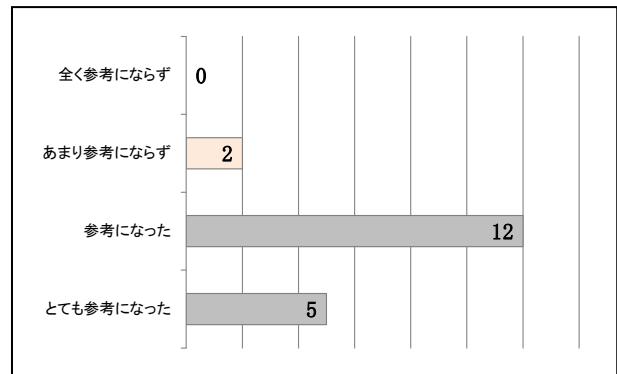


図 7: Q4: 今回の説明会は役にたったか?

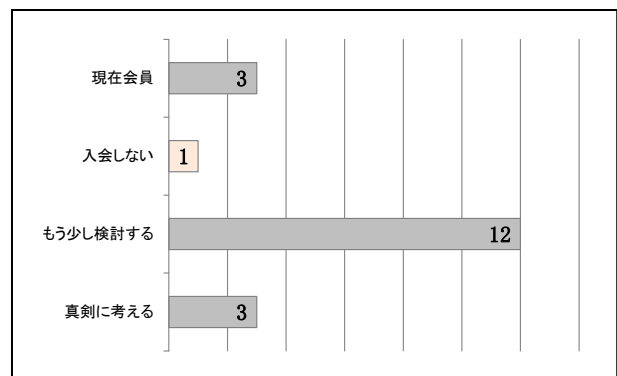


図 8: Q5: JIMA に入会しますか?

### 4. アンケート結果から

Q1 の回答では, JIMA の理事、大学の教員・知人からの紹介というのが 12 名で, 関係者の方々には色々手を尽くしていただいたことが分かる. その他と回答した中では, 技術者である父親の勧め, 大学からの紹介, JIMA 理事からの紹介, 詳細無しだった.

Q2 の回答では JIMA の認知度は 50% 程度であり, なんらかの形で経営工学を学ぶ学生への JIMA 認知活動の必要性を提起していると考えられる.

Q3 では当日配布のパンフレットや説明で JIMA の諸活動について興味のあるものを複数選択してもらったが, 春・秋季大会, 支部活動(講演会, 学生論文発表会), 研究部門活動, 産学連携研究交流会等が選択された. 経営工学に関する研究発表の場や実業

界との交流等に興味を持ってもらっている結果かと受け止めている。

Q4では今回の特別セッションでの感想を聞いているが、「技術士への理解が深まった」、「技術士取得後の企業内技術士からキャリアプランが聞けた」といった回答を得た。今回の説明では、学生、若手企業人、シニア企業人という講師が色々な角度から技術士という資格とそのメリットを説明していただいたことが良かったのでは無いかと考える。特に一次試験については、若い時(学生時代)に受験しておく方が有利だという説明は参加者も理解・納得していただけたものと思う。

最後の Q5 では JIMA の学生会員になりますかという質問だったが、「真剣に考えてみる」、「もう少し検討する」という肯定的な回答が多かったことは喜ばしいことであった。

## 5. おわりに

今回、人材育成委員会でこのような特別セッションの企画を実現出来たのは JIMA 関係者のご理解・ご支援、技術士会経営工学部会のご協力があったことであり謝意を述べたい。

また、新しい参加形態としてのネット配信は大きな混乱もなく無事に終わったことで、今後の学会での活用の際に一石を投じることが出来たのでは無いかと

思う。

反省としては、事前参加の募集期間が1ヶ月を切ってしまう十分な募集期間が取れなかったこと、中でもネット配信参加者の場合には、事前申し込みから当日のネット受信準備迄に諸事由により連絡がうまくいかず当日の参加が出来なかった(ネット参加の事前申込者 13 人に対して当日参加者は 7 名)ことは残念であり、今後の課題として残った。

## 参考文献

- 1) 日本経営工学会の人材育成活動と課題, 日本経営工学会 2016 年度秋季大会予稿集, pp. 238-239.
- 2) 技術士の活動と技術士試験, 日本経営工学会 2016 年度秋季大会予稿集, pp. 240-241.
- 3) VE(バリューエンジニアリング)は女性に向いているのか, 日本経営工学会 2018 年度春季大会予稿集, pp. 180-181.
- 4) 特別セッション 経営工学 3 団体連携に関するこれまでの活動と今後の戦略, 日本経営工学会 2015 年度春季大会予稿集, pp. 42-43.